

2011 2 あけぼの

「今」を生きる — 時代はどこに行こうとしているのか

特集 対談 シンプルに、まず“目の届く範囲”で生きてみる 矢代朝子×山田太一

「漏れる」時代から「読む」時代に 藤原新也

「よく生きること」長 有紀枝

“ことばの杜”への小道 Part II / 子ども自ら、自分の言葉で考え、心を育てる キレない子ども育てる
【セカンドステップ】 お相手・渡辺紀久子氏×山根基世

ミステリアスな日々/冬の朝木崎さと子

活憲とヒューマンライツ (人権) / 九条の島を「殺人鬼の島」にするな 伊藤千尋

光と風のおくりもの/マザコンの告白 三浦暁子

キリストの足跡/新しいイスラエル 百瀬文晃

連載

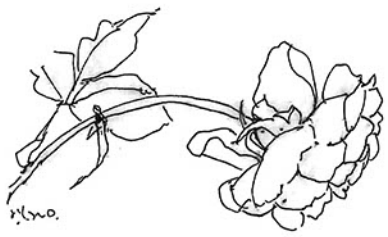




渡辺紀久子

わたなべ・きくこ

NPO法人日本こどものための委員会理事。キレイな子どもの心育てる「セカンドステップ」を指導している。ホームページは<http://www.cfc-j.org>



山根基世

やまね・もとよ

NHK退職後たちあげた、有限責任事業組合「ことばの杜」代表。著書「ことばで「私」を育てる」「ことば」ほどおいしいものはない」ほか。



「ことばの杜」への小道

Part II

第2回

子ども自ら、自分の言葉で考え、心を育てる—キレイな子どもを育てる「セカンドステップ」

アメリカで「セカンドステップ」と出会った

山根 渡辺さんは「日本こどものための委員会」の理事でいらつしやいますね。

渡辺 今日は一緒に活動している伊藤なおみさんも同席させていただいて。

伊藤 三十年くらい山形県の小中学校で養護教諭をして、春から家庭の援助もできるように、筑波大学大学院でカウンセリングコースの勉強を始めます。

山根 渡辺さんも都内で二十三年、カウンセリングをしてらして。

渡辺 講師をしているときに、荒れている学校から「ぜひ来てくれ」と言われて通っていました。それを辞めたのが十年ほど前、この活動に出会ったので専念しています。

山根 高校でカウンセリングをなさっていたころに出会う子どもはどのような感じでしたか？

渡辺 やはり親が問題なのですが、虐待された子どもが人間関係を円滑に結ばなくてどうしたらいいか、いつも悩んでいました。たまたまアメリカカへ行く機会がありまして、十三校くらい、小・中・高校をバスを乗り継ぎながら訪問しました。その中のある小学校で不思議な授業をやっています。これはいいなと思いました。その教材を手に入れるために半年後にもう一度アメリカに行きました。翻訳に相当時間がかかり、出版と研修の両方をする組織が後ろについてないと著作権を渡せないと言われて、それを探すのにも時間がかか

りました。それがこのセカンドステップです。

山根 子どもたちが荒れる背後にやはり親の問題があるんですね。

渡辺 きっかけになった女性は大変不幸な生まれ方をして、ある夫婦にもわかれたのですが、育ての母が三歳のときに難病にかかり高一のときに亡くなった。そのころから父親が彼女を虐待して、そのせいでしようか、人間関係がうまく結ばず、三十歳を過ぎてでも定職につけなくて生活保護を受けています。義務教育が終わるころにはどんなに虐待をされていても社会に順応できる子に育てるのが私の願いでしたが……。

山根 二十三年、都内の高校でいろいろな高校生を見てらっしゃると、時代の子どもの推移のような変化はありましたか？

渡辺 時代、ありますね。最初は暴力で校内暴力から不登校になり内向的になりました。私が行ったときは、女の子同士の殴り合いがありました、一人の子の耳が聞こえなくなつて。そういう事件などでショックを受け、毎週毎週ショックの連続で。

山根 今はそれが収まったわけではなくて、違うかたちで出ている、と。

伊藤 そのころ子どもだった子が親になり、その子どもたちがまた荒れています。

渡辺 当時はいろんな学校を回りましたが、トイレを壊したり、ガラスを割ったり、どこかに発散しなかったのでしょうか、子どもたちは。学校で教育をしていかないと。

山根 家庭も学校も地域社会も教育力を失って

いますね。ならばこれからの時代、学校がやらざるをえないだろうと思います。だとすれば、話し言葉は今まで大家族の中で自然に覚えていたことですが、それに代わることを学校で教えるカリキュラムがないといけないと思うのです。私は今、取りあえず朗読から始めています。話し言葉は音声です、朗読の基本は、書いている人の気持ちをきちんとして読み取って自分の中で咀嚼して相手の心に届ける。ですから、セカンドステップの方法を見て、目からウロコという感じで。

アメリカの学校をご覧になっている中で、これとお思いになったのはどういうところですか。

渡辺 生徒と先生が対話をしながらスキルを子どもが学んでロールプレイに生かす。それを日常生活に使えることがいいと思いましたが。子どもたちのセカンドステップ。一番のきっかけは、そのレッスンをみた後に、足にギブスをはめた先生と私が廊下を歩いていたら、小学校一年生の子たちが数人走り寄つてきて、「先生、大丈夫？」「痛くない？」と相手を思いやる言葉を自然に出してきたのです。日本の子はそう思いやる言葉を出さないことがないでしょうか？これがセカンドステップの効果だと思つたのです。確信を得たというか。

山根 ファーストステップとセカンドステップがありますね。

渡辺 ファーストステップは、アメリカで一九八〇年代に虐待された子がストリートチルドレンになって道を歩いているケースが多く、この子どもたちをなんとかしようとして虐待防止プログラムが作られました。トーキング・アバウト・タッチン

グ、人の体に触ることの話、と訳していいかと思うのですが、向こうは子どもをよくハグしますが、それで虐待になることもある。どこまでが愛情になり、虐待になるかを判断させるプログラムです。でもこれは被害者には役立ちますが、加害者はそのまま。被害者にも加害者にもならないプログラムを作ろうということでセカンドステップができました。相手と対話をしたり、コミュニケーションをうまくして暴力をやわらげる。減らすことはできないけれどもやわらげることはできる。

山根 伊藤さんはセカンドステップのことをお聞きになって、すぐ学びにいらしたんですか。

伊藤 小中学校で授業にならない状況のときに研修会先でセカンドステップのパンフレットを手にしました。それで特別支援の先生と二人で学びに行き、すぐに学校の校長先生に絶対に必要だとお話をして。学校で途中のカリキュラムに入れることはとても難しいんですけど、私たちが勉強してきたいろいろなことを取り入れてくださる管理職で、いいと思つたらやってごらん、と。朝、読書週三回の一時間を使って実践しました。

山根 プログラムについて説明してくださいませか？

伊藤 第一は、相互の理解で、お互いの気持ちを理解しあう。自分の気持ちを理解し、相手の気持ちも理解する。

山根 今日写真を使って授業をされていますね。

伊藤 今日は、第二章の終わりごろでした。第一章では子どもの顔が、笑顔、怒った顔、悲しい顔

などで出てきて、何々君はどんな気持ちだと思
う？と聞く。その気持ちはこの顔のどこから分
かるのか、という手掛かりを聞くと、悲しそう
目をしている、と子どもが表現します。それに対
していい悪いの評価をしないで、ほかに？と
たくさん自由に意見をさせて、相手の表情から
気持ちを読み取ること理解していくようにしま
す。

山根 まず相手の気持ち、感情を読む。そして
自分の気持ちを表現する。伝える。

渡辺 相手の立場に立つ。相手を思いやる。

伊藤 そして問題解決の第二章に入り、第三章
は怒りの扱い方。怒ったときどうするか。

山根 喧伝けんでんされているのは、怒ったときには五
つ数えて深呼吸をして伝える。その前に自分の感
情や、相手の感情をちゃんと見る。

渡辺 それが基礎で、相手の気持ちが分からな
いと、問題解決もできませ
んし。

山根 今日は問題解決で
したね。プランコに乗っ
ていて、自分も乗りたいとき
どうする？という問い掛
けをする。子どもたちは五
十数える、それでだめだっ
たら諦めないでほかのこと
をやる、と。これはまさに
人生の心構えですね。

渡辺 こないだはブレ
イニングをやりまし

た。解決策が一つではなくていっぱいあることを
知る。自殺する子どもは、解決法は一つしかない
と思ひ込みます。小さいときから普段に思考範囲
を広げておくとき思い出して役立つこと
思ふのです。先生が教えるときに気をつけること
は、子どもがなるべく発言できるように、いい、
悪いの評価をしない。中立的に対応する。褒めた
いけど、褒めると次の子が発言できなくなりま
すから褒めない。それから子どもに考えさせるよう
にして、例えば「なぜこうなったの」「君はどう
思ふのか」と子どもが長いセンテンスで言わなけ
ればならないような質問をします。

気持ちを「言葉」で伝えるように

山根 子どもたちの振る舞い方が違うと思ひな
がらソーシャル・スキルという考え方を教育して
こなかった感じはありますね。ソーシャル・スキ
ルとはどういうことと考えてらっしゃいますか。

渡辺 例えば今日のレッスンで、「入れて」と
言う前に、二つのこと言いましたよね。「何して
るの」「楽しそうだね」。相手が喜ぶようなことを、
日本はあんまりそういうのは上手じゃないけど、
いいよと言われるようなことを教える。(笑い)
人間関係を円滑にするテクニクですね。

山根 「小さな旅」という番組をやっています
が、田舎の畦道などで挨拶するときと同じだな
と思ひました。(笑い)「こんにちは。いいお天気
ですね。稲がよく実ってますね」と始める。大人
はいつの間にか身につけていますが、子どもたち

は今の日本の社会状況の中で身につく場がないで
すね。社会も崩壊してほとんど大人と触れ合うこ
とがなくて。

渡辺 テレビやファミコンや携帯……。相手と
対話することが少なくなってきましたから。

山根 電子メディアが非常に問題になって、私
たちが言葉のことで活動していても、その影響を
感じます。この中で、言葉の綾取りがあると書い
てらっしゃいましたね。

渡辺 幼児のウーブンワードという、言葉をあ
んでいくアヤマみたいな、そういう幼児用の教材が
出ているんですけども。まだ翻訳されていないの
ですが。

山根 セカンドステップの手応えはどうですか。
渡辺 もうすぐ感じていきます。日本中の子ども
たちにはまだ届いてはいませんが、大阪の泉佐
野市では幼稚園から中学までこの教材を取り入れ
てやっています。教育委員会からも。

山根 都内では品川区が取り入れていますね。

渡辺 練馬や江東区でも有志の先生が新聞記事
などを見て研修会に出て、道徳の時間や朝の自習
の時間を使って工夫してやっています。

山根 伊藤先生は研修を受けて、帰ってクラス
で実践してごらんになったんですか。

伊藤 養護教諭でクラスを持っていないので朝
の時間帯の一、二年生にやってみました。ADHD
や発達障がいのお子さんや友達同士のトラブル
があつたりで最初は聞いていられない状況でした。
でも個別に事前レッスンをして慣れていくうちに、
手を挙げてロールプレイもできるようになりました。





たし、トラブルの多い子は保健室に来て泣きながら、こういう気持ちだったんだ」と言葉で言えてうれしかったですね。今現在暴れているお子さんには効果があるかどうか分からない、と言われていたのですけど。

渡辺 養護施設では虐待された子が七十五パーセントから八十パーセントくらいいます。それで立川の児童相談所では、虐待された子どもと両方に気づきがあつて効果がある。児童相談所でも多く使われ始めました。ある保育園では、保育士全員がセカンドステップの研修を受けて実践をしています。園長先生はじめ先生たちが変わってきますね。

山根 この先が楽しみです。今教科書は四歳から八歳向けのものは出て、小学校三年生向けはもう出たんですか。

渡辺 四歳から八歳用がコース一。アメリカの小学校一年生用、二年生用、三年生用と分かれています。それを順次訳してまして、今コース五を訳しています。コース四は、盗みなくなったときとか、嘘つきなくなったとき、失望したときなどの具体的な例があります。

山根 これを始められたのは二〇〇一年でしたか？

渡辺 NPO法人になったのが二〇〇一年で、出会ったのは一九九七年くらいです。

山根 子どもが自分の頭で考えた自分の言葉を話せるように育てたいと思っています。それをまさに実践してらっしゃる、いろいろな局面でものを考えさせますね。

伊藤 自分で考えるにも言葉で考えなければいけないですから両方大事です。心を育てるのに情動、感情がなければスキルだけ教えても響かないですね。言葉と切り離せないです。

山根 言葉を育てるのは心を育てることで、相手の感情を知ること……。

渡辺 想像力も育てることになります。

山根 自分の気持ちを分析するのも考えることですし。

伊藤 第三章の怒りのところは、怒りが出る前に落ちついて、というところから入ります。落ちついて深呼吸したり数を数えたりして、初めて冷静に自分の心がどうしたいのかが分かる。実際に中学校でアスペルガーのお子さんが発作を起こしてパニックになったときに、深呼吸と言ったら深呼吸をしてその後どうしたらいいかを考えるんです。ただ考えなさいと言葉で言ってもできないところを、ロールプレーなどで繰り返しながら学んでいくので身につきます。学校では、言われてそのとおりでできないお子さんが非常に増えました。実際に体験をする中で子ども自身が学んでいく。セカンドステップはまさにそういうものだと思えます。

山根 でも考えてみたら、皆がそのとおりにやる

ことのほうが怖いですよ。まず考える教育をしていたら、あの戦争にただれ込めようなんてなかったですよ。ものを考える人間を育てることは、なによりも世界の平和につながると思います。

渡辺 この教材は日本だけではなく、二十数か国で使われています。国際会議もあります。皆がこれを学んでいたら平和になるような気がします。

山根 ひとつフィンランドの教育が目玉でしたね。なぜそう？と聞く。たとえば小学校一、二年生の国語教育で、まず文法から入って、これは名詞、動詞、形容詞と教え、先生が机はなんになりますかと聞くと、「名詞」と答える。すると「なぜ名詞なの？ ミクシー？」と聞く。これは名詞だから名詞、と答えるところをフィンランドの子は「つくえる、つくえない、と語尾が動かないから名詞です」ときちんと答える。

渡辺 そうやって一つずつ考えないと違いますよね。

山根 このセカンドステップは人間の感情の部分を一つひとつ考えさせますね。

渡辺 そして先生と子どもが対話して考えます。日本の教育は今まで一方的に先生が教えて終わりでしたが生徒が答える。でも指導は難しいです。変な答えが返ったときどうやって修正していくかが楽しみです。何かが変わっていきますね。

山根 先生の力量が求められますね。これから

渡辺 これから親子塾を全国的に広げようと思っています。